ラートな感じでこうなって

ニコス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

ラートな感じでこうなって【小説タイトル】

ニコス 【作者名】

新しい大学生のお話。

~ 冒頭~

よしっ、 準備完了っと。 母さん俺もう先に行ってくるね。

ねえ。 あら、 あんたもう行くの?時間にはまだだいぶ早いのに真面目

急いだほうが良いと思うよ。 あのね、 母さん。 後30分後には入学式がはじまるんだから。

育ったねえ。 別にまだ急ぐような時間じゃないわよ、 あんたせっかちな子に

・そうか、この国はもう駄目だ。 いやいやいや急げよ、本当に何でこれが特別教授になれるんだ・

名門大学の特別教授なんだから母さんの態度に対してこのぐらい言 ってもいいだろう。 母さんに対して俺が言える範囲で最大の嫌味をぶつけてやっ

来て。 ゴクン、 ふう。 あっ、 思い出したちょっとこっちに

あれ、 味噌汁を飲み干した母さんに何かを思い出したように呼ばれた。 もしかして怒ったかな。

何で?」

あんたに入学祝いやるの思い出したからよ。」

圧倒的に勝っている。 ら行った方が良いんだけど・・ 正直行きたくない、けどもし本当に怒ってたら面倒な事になるか でも行きたくない気持ちの方が

てきて目の前に突き出してきてこう言った。 んがリビングの隣にある自室から手のひらサイズの四角い箱を持っ 行くか行かないか迷っていると、気持ちを察してくれたのか母さ

を上げるのを思い出したのよ。 別にあんたのさっきの発言には怒ってないわよ。

「えつ。」

あんた何を驚いてんの、 別に入学祝い上げんのは普通のこ

れだとこの展開は予想外だった。 この流れじゃなかったら普通だと思うかもしれないけど、 今の流

んでしょう。 いいからさっさと開けなさいよ、 あんた今から大学に行く

だ完全には信じていない、 復措置としてびっくり箱的な可能性もゼロという訳ではない。 し付けられるように母さんからプレゼント受け取った。 もしかしたらさっきの発言に対しての報 正直ま

る開けてみる。 綺麗に包装されたリボンを紐を解いて黒で統一された箱を恐る恐

「うわぁ~。」

ブランド物の腕時計だった。 さんからプレゼントとしてもらった腕時計は凄く嬉しかった。 思わず声が出てしまっ た。 腕時計は普段あまり使わないけど、 箱から現れたのはびっくり箱では無く、

「ありがとう母さん、普通に嬉しいよ。」

携帯の時計じゃなくて、 まぁ、 あんたも今日から大学生なんだから時間見るときは 腕時計で見るようになんなさいよ。

うん、ありがと早速付けていくよ。」

ツを着ているのもあって何かこう気持ちが引き締まった気がする。 腕に付けてみるとほんの少し重さがあるけど、 入学式のためにス

わよ。 別に良いってことよ。はいはいさぁ行って来なさい遅れる

それを母さんが言うか。 って痛いから背中を叩くなよ。

母さんが俺の背中をビシビシと叩いて玄関に追いやった。

いてて、 なら行ってきます。 母さんも遅刻しないようにね。

「あいよ。 いってらっしゃい。

 \sqsubseteq

玄関のドアをあけたら日の光が全身にかかって眉をひそめながら、

起こるのかと期待に包まれながら大学までの道のりを進んだ。 ドアから一歩を踏み出した。今日から大学に通う大学生として何が

PDF小説ネット発足にあたっ

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ ています。 の縦書き小説 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 は 2 0 存書籍 タイ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n4802ba/

ラートな感じでこうなって

2012年1月13日01時57分発行